

子供の衛生上保姆の常に注意すべきことども

宮 本 仲

幼稚園の先生は、子供の手や爪をきれいにするといふ事に氣を付けていたゞきたいと思ひます。

爪の汚い爲めに、そこから黴菌が這入つて腸胃の病氣を起したり、鼻や、耳や、頭の腫物を搔いたりして大變な病氣を惹き起したりします。鼻の中へ指を突つ込んで鼻中隔の粘膜を破つて鼻血を出す事があります。鼻血だけに止つて居ればまだよいのですが、汚い爪で鼻の中を搔いたのがもとで、とう／＼一命を果した例があります。それは私も診た患者ですが、小學校へはいつたばかりの子供でした。鼻の中へ汚い指を突込んで、そこから黴菌がはいつて鼻の中に、ねぶとのやうな腫物が出来て緊衝を起した。「之は大變だから専門の醫者に診せなければいけません」と私はその母親に注

意しました。それにもかゝらずそのお母さんは別に氣にもとめずに硼酸水で、も洗つておいたらよからうと云つて、そのまゝに放棄しておいた。その爲めに手遅れがして前頭竇といふ危険な病氣になつてこまつた。そして内科と外科との面倒な治療をしました。が間に合はないで死んでしまいました。こんな恐ろしいのは千人に一人位の例であつて希有ではありますが、こんな甚だしい結果にもたち至るといふ事を承知しておいてもらいたいと思つてお話ししました。

耳の中に汚い指を突つ込むとこれもなかく、危い。指に黴菌がなくても耳の中に黴菌がはいつて居る事もある。それを蟲などの舞ひ込んだりした時に爪やかんざしの先きでほじくる、すると耳の

中にかすり疵が出来てそこから黴菌が這入り込みます。そして往々丹毒といふ病氣を起す事があります。子供は頭の中によく腫物が出来るもので、それを搔いたり、それから先生に叱られると直に頭を搔く性質をもつて居るものです。そしてやたらに頭を搔いて、頭のくさを引かいたりしてそこから丹毒を起した例は一番澤山にあるやうです。丹毒は一定の日數を経なければ癒らない病氣であつて、そしてそれが時として生命にもかゝる恐ろしい病氣なのです。こんなわけであるから子供の手と爪とはよほど清潔にするやうにくれぐれも御注意を願いたいもので御座います。幼稚園で用ゐる粘土はどうなつて居るものかしりませんが、消毒をするわけにはいかないものかしら、消毒が出来なければ粘土を用ゐたあとの手と爪とを十分にきれいに洗ふ事を忘れぬやうにしなければなりません。

それから幼稚園の手工に用ゐる豆ですが、あれ

もよほど注意しなくてはなりません。豆は毒ではありませんが、子供はわけもないたわむれをして口や鼻や耳の中などへやたらに豆を放り込む事があります。口の中に入れたのは吐き出せばよし、吐き出せないにしても呑み込む位の事でまあ大した騒ぎにもなりません。耳の中や鼻の中はよほど氣をつけないと危険い結果を來す事があります。鼻の中へ豆を入れる時は豆のはいつて居ない方の鼻の穴を指で押へて居て、思ひ切りの勢でちんをさせるのです。紙などあてゝすると、それだけ勢をそがれますから、何もあてずに思ひ切つたちんをさせるのが一番の上分別です。少し智慧のある人が中へ押し込んだりして大失策をする事があります。中へ押し込んで都合よく咽喉へゆくか口へ出ればよいが、不幸にして食道の方へゆかずに食道へ行つて聲門の中へでも落ちると大變になります。豆は鼻の中へはいると濕りを受けてよくれます。そしてだんぐりに出にくくなります。之

を出さうと思つてつゝといふやうな事も大に考へものです。恰度よい加減の處を引つけて呼吸でうまく出せばよろしいが、素人はどうも失敗りやすい、ほじくる毎にころ／＼と中へころがしこむやうな事になる、そしてだん／＼險呑な方向に轉せしむるやうな事になるから鼻の中へ物のはいつた時、つゝといふ事は絶體にやめる方がよろしいやうです。「吸ひ込みなさい」など、云ふのも同じく危険です。ですから前に云つた通り鼻の中に豆などのはいつた時は最勢のよい手ばなをかませるといふ事が一番よろしい。手ばなでいけなかつたら直に醫者につれてゆくのが安全です。

耳の中へはいつた時は最むづかしい、口もとにある間即軟骨部にある間は素人でも取る事が出来るが一步過つてその奥の骨部にはいるとなか／＼むづかしくなる、そして耳の中の温度と濕りとの爲めにふくれた豆が骨を押しつけるので甚だしい疼痛を起して非常に困難をする事があります。こ

れも口もとにある時に、種々かんざしの耳などで取り出さうとしては中にころがし込む事が多くあるそれで耳に物を入れた時はなるたけ素人は手を出さぬといふ事にするがよい。もし手を出すなら、机の上とか縁側えんがわに、子供を横に寝かして、耳の穴を真直に下の方にむけておいて、頭をとん／＼と叩いて、その響きで下へ落す工夫をするのが一番よろしい。其外には固く信じて必ず出る見込みがつかない限り決して手を出さぬが安全です。耳かきなども決して使つてはいけません。耳の中へ水または油などを入れて滑らせて出さうなど、するのは大變な危険です。リヌリンを入れるのも危険です。豆は是等の液體に逢ふとふくれる性質をもつて居りますからます／＼出にくくなるばかりです。小さな石ころなどの如きふくれる心配のないものなら滑らせて出すのもよろしいが、うつかりと生兵法は試みない方が安全です。大人が不調法をしなくても子供が自分で指を突つ込んで奥の方

へ押し込んでしまふ事があります。それで子供が鼻や耳の中へ物を入れた時は固く禁じて子供自身にも指を入れさせぬやうに注意しなくてはなりません。

今一つ幼稚園の先生が、口にくはへて子供に見せぬやうにしておもらひしたいと思ひます。子供は直に先生のまねをしたがるものですからよく氣を付けていたゞかねばなりません、親のまねをして揚子をつかつて咽喉へ揚子が折れ込んで大

變に困つた例を私は知つて居ります。

それから幼稚園や小學校では昇汞水位は用意しておいて、子供が一寸した怪我をした時には脱脂綿に浸してつけてやるやうにしておらひしたいものです、硼酸水位では役に立たないから千倍の昇汞水を一単位は備へつけておいていたゞきたいと思ひます。アルコールやヨヂウムチンキなどもよいのですが、之等は痛くて子供が閉口しますから。(文責記者)

話の起源

K、 T 生

近世の教育の進歩は倫理的若しくは純智的の方面に於てよりは寧ろ審美的の方面に於て急速な變化を遂げて居るといふことには誰しも異論がないことと思ふ。往昔の教育は強き倫理的理想及び訓

練等に於ては却々力瘤を入れてゐたのでこの點に於ては今日の教育に優るものがあつたかも知れぬ。しかし乍ら一方今日の教育は却々進んで居る——少くとも大なる變化を経て居るのである、今